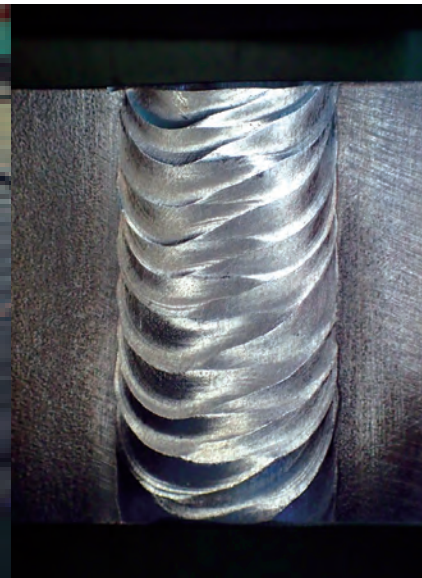


溶接



溶接構造物は産業を支えるプラントの重要な構成要素。
溶かした金属を巧みに操り、金属どうしをつなぐ、
それが溶接士の仕事です。

産業に必要不可欠な溶接士とは

金属の板や管などを加工して組み立て、溶接して製造されるのが「溶接構造物」。その溶接を担うのが溶接士です。溶接作業にはやさしいものから極めて難しいものまでありますが、難しい溶接ができる溶接士は信頼され、誰もが憧れる頼もしい存在と言えます。

溶接は溶接構造物の強度を確保する上で極めて重要な役割を果たします。溶接したところは非破壊検査によって確実に溶接が行われているか確認しますが、その検査では確認しきれない部分もあります。確かな溶接が行われているか否かは、溶接士の腕前に大きく掛かっているのです。

溶接士の役割

溶接面から透かし見る、真っ暗な世界に浮かぶアークと溶けた金属の光を頼りに、溶接トーチを操作して確かな溶接を行うのが溶接士。溶接がうまくできていなければ、最悪の場合は溶接構造物の破壊につながることもあります。またトラブルの発生したプラントを補修する場合も、溶接士の技術がなければ復旧が難しくなることもあるのです。

日々の修練を経て多くの経験を積み、溶接品質の確保に責任を持って努めること。それが溶接士の役割であり、人々の豊かな暮らしを支えるプラントの健全な操業につながっていくと言えるでしょう。

溶接 Q & A

Q どうやったら溶接士になれますか？

A 溶接士になれるチャンスは意外と多くの人にあります。まず、プラント関連の設備工事業を行っている会社に入社しましょう。教育や訓練は会社から指導してもらえます。

Q 溶接士のやりがいは何ですか？

A 自分が手掛けた溶接構造物が完成したのを見るときは、いつもやりがいを感じます。また、壊れた設備の補修で難しい溶接ができたときや、プラントが運転し始めたとき、溶接の検査にすべて合格したときにも、満足感や達成感を感じます。

Q 具体的にどんな仕事をするのでしょうか？

A 製缶工や配管工が組み立てた溶接構造物や配管の金属どうしを溶接します。多くの仲間とコミュニケーションを取りながら仕事を進める一方で、溶接面をかぶれば誰とも話さず作業に集中し、安全・品質・効率を確保します。

Q 溶接士の働く場所は、どのようなところですか？

A 入社した会社の製造工場や設備会社のプラントで働くこととなりますが、出張で国内だけでなく海外にあるプラントを渡り歩くこともあります。腕のいい溶接士は世界中で必要とされています。

免許&資格

- ・手溶接 (JIS N-2F)
- ・半自動溶接 (JIS SN-2F)
- ・ステンレス鋼溶接 (JIS TN-P)
- ・ボイラー溶接士
- ・各種法規の溶接士など

